

# 産学官連携活動と高専教育

独立行政法人 国立高等専門学校機構 理事  
工学博士 五十嵐 一男

地球温暖化やエネルギー・鉱物資源の偏在化に伴う問題など地球規模で対処が望まれる諸課題の顕在化、新興国の台頭による産業・経済の多極化、一国の経済破綻が世界的な経済危機に発展する経済グローバル化など世界を取り巻く諸環境は前世紀後半からより厳しさを増しています。産業界では、厳しい経済・環境制約の中、自社技術を常に深化させながら産業構造をも変革させて国際競争力、すなわち技術・コスト競争に勝ち抜くための並々ならぬ努力が続けられていますが、依然として厳しい状況が続いています。産業界と連携する上で、またそこに卒業生を送り出す側の認識として、そのような状況にある産業界が求める国立高専とは如何にあるべきか、高専が輩出する人材とは何かを常に検討・整理しておく必要があります。



高専は、産業界からの強い要請に応じて昭和37年の第一期12校の創立からスタートし、現在51校・55キャンパスに展開しています。創立時から「創造性のある実践的技術者の育成」をミッションとし、それらを体した多くの卒業生を産業界に輩出してきたところ です。先頃、「大学における実践的技術者教育のあり方に関する協力者会議」（文部科学省）が大学の技術系人材の育成のあり方として、各専門分野の優れた技術者の育成に留まらず個別の知識を実社会に展開できる実践的な技術者の育成が重要と報告しています。高専で行ってきた技術系人材の育成は、まさにとりまとめられた人材像を先駆けて実践・育成してきたものであり、とりわけ産学官連携活動を通じた実践教育はより重要度を増してきており、一層きめ細かい取組が重要となります。

最近、（社）日本機械工業連合会から高専を対象として製造業の高度化を担う技術系人材像に関して興味ある調査研究結果が報告されています。この報告書から読み取れることは、生産技術者層に限られますが今後の高専生に望まれる人材像として、専門的な知識をベースとして課題解決能力を身につけるだけではなく、グローバルな視点から生産現場全体を掌握できる人材及び将来の動向をも分析の上戦略を立案し実行できる人材などが期待されている点です。このようなマルチな能力を涵養するには、従来にもまして産業界との連携を密にした研究開発・創造活動の場が身近にあり、それらに容易に参画できる環境が整えられることが必要だと考えます。産学官連携活動の一環として、そのような環境整備事業は積極的に支援していきます。

地域産業の再生・活性化が強く望まれています。経済産業省では産業構造ビジョン2010をとりまとめ、地域経済活性化の方策として「地域の特性に合った多様な地域の発展モデル」を創出していくことが必要だと提言しています。高専はこれまでも地域に根を張って、地域産業の核となるものづくり産業や農林業に強みのある地域では、早い段階からの農工連携などその地域の特色、強みとなる産業と連携し、成果を挙げてきた実績があります。高専の強みは、単なる技術的な連携だけでなく、このような活動を通して培った人的ネットワークの構築にもあります。地域産業の再生・活性化が強く叫ばれる中、高専はその実績と強みを持つ組織として、再生・活性化を担う中核の立場で地域の発展モデルの構築に貢献できるのではないのでしょうか。そのためには、一地域を一つの高専のみで担う発想から、機構組織としてのスケールメリットを活かす方策やグローバル企業への発展も視野に入れた取組など新たな試みを組み込んだ産学官連携活動が望まれます。